

北村朋幹ピアノリサイタル 感想集

生涯学習講座「キラリ★ピアニスト探訪」受講のかたから頂いた、リサイタルの感想の一部をご紹介します。

ベーゼンとプリペアドピアノ両方の演奏を楽しめる贅沢なものでした。ケージのソナタは聴いてるうちにあたかも宇宙に浮遊しているような万華鏡の中に入り込んだようなふしぎな感覚になりました。そしてアンコールのチャイコフスキーのロマンティックなメロディの心に沁みることと言ったら！リサイタルを通して北村さんが音楽を心から愛していることがとても伝わってきました。

ピアノにこんなにたくさんの引き出しがあったとは。

赤ちゃん玩具起き上がりこぼしからお寺の梵鐘、木魚、歌舞伎のツケの木のおと、ガムランなどアジアンテイストたっぷりで心地よかったです。海岸で貝をひらうイメージより汐が引いたあとの干潟にシオマネキやムツゴロウ、ワラスボたちが戯れいたり氷柱から滴が落ちたりとか天上から蜘蛛の糸が静かに下ろされという、日常が展開されている心地よさでした。

海辺で貝殻をひらうように、という彼の言葉は彼の思索の結果を意味しているのかな？貝殻はつまりネジでありボルトでありゴム板など彼が求めた表現素材のことではなかったのではと思ひ至りました。

お二人のお話を伺っていたので聴きやすかったです。北村さんの求道者のような音に、宇宙や自然界の森羅万象に包まれる感覚を味わいました。最後の音は、それらが本来の運行を続けられるよう、平和を祈る音に聴こえました。アンコールの選曲、演奏も素晴らしかった！幸せ！

前日、加工されたピアノを見た時は少々痛ましかったが、ガムランにも似た打楽器に変身した音は豊かで神秘的で、長い演奏時間も気にならなかった。仕込みから演奏が始まると言われた北村さんの集中力と演奏技術には脱帽。サティ、武満も限りなく美しく心が震えた。アンコールの「10月」も良かった！

最初の曲から最後の曲まで、感情がすべて演奏に持っていかれました。小さい音量にも関わらず北村さんの集中力（緊張感）が途切れなくて、しかも私たちの全神経がぎゅっと凝縮されるような、ずっと紡いでいく演奏が圧巻でした。全ての音に意味があって、コンサートが終わった後の、満足感が半端じゃなかったです！

北村さんの演奏会は、実際に演奏を聞くとプログラムの意図したものを感じる人が多い。今回は「舞台芸術」かな。サティの前奏曲で幕を開け、アブストラクトな映像美の武満、ジムノペティで一幕が終わる。第二幕、プリペアドピアノの音と北村さんの演奏はケージとカニングハムのような。メランコリックな秋の歌で幕引きを惜しむ。

ケージについて、その①。前日の講座を受けて出た疑問。想像以上に細かい再現性を求められる、この曲にケージの求めた音の偶然性はどこに潜むのだろう？と。実際に演奏を聴いて気づいた。録音と違う音が聴こえた。まるで442hzを440hzで聴くような感覚

前日の講座で北村さんが「実は少しアレンジしてます」とこっそり教えてくれた。マテリアルも時によって適するものが変わるから、全く同じ音は出せない。プリペアドされた音たちは、その時そのピアノと奏者だけの出会い。そこにケージの偶然性の余白が用意されていたのかな。

ケージについて、その②。本日の演奏を聴いて、ゲルハルト・リヒターのカージシリーズが思い浮かんだので、それについて。先日MOMATでビルケナウを見た。彼はナチスのホロコーストを描き色を重ねることで、自身のドイツ人というアイデンティティとイデオロギーの戦いに向き合った。

同じようにケージも、自身のコンプレックスをこの曲を描くことで乗り越えた。画家は色で、作曲家は音で、自分の逃げられない弱さや傷と向かい合った。そして、私達はその作品に触れることで、鏡のように内省する。そんな時間だった。

前日に、音楽ライターの高坂さんとピアニストの北村さんの話を聞いてコンサートに臨めた◎。琴や鐘の音がするプリペアドピアノの音だけに耳を傾けたからか、帰宅後も心が落ち着き、翌朝もいつもより心が安定していて驚いた。徒歩圏のホールで上質の音楽体験が出来ることに感謝。定期的な継続を心から願っています。

待ちに待ったジョン・ケージ。ユーモラスな音が、踊りやおしゃべりが、遠い記憶が、星の瞬きがきこえる。静寂に生まれ静寂へ帰っていく。合間を縫って、ケージの切実でナイーブな声が挟まる。CDと違い、北村さんの息づかいやフレーズが音楽の生の姿を伝える。滋賀の公演も楽しみ！

北村さんは、どんな椅子を使うんだろうという楽しみが毎回ありますが、今回は普通の椅子でした。

プリペアド・ピアノは初めて聴きました。鉄琴とか石を叩くような音、オルゴールのような音などいろいろな音がして、長い曲でしたが飽きなかったです。北村さんはピアニストというより職人のように見えました。

サティの生演奏を聴くのは初めてでしたが北村朋幹さんの演奏は素晴らしいと思いました。サティの虚無的な曲想と北村朋幹さんの無機質な感じが同調したかのような演奏だったからです。北村さん自身が語っておられた修行僧のような日々の鍛錬が演奏に活かされ聴くものに透明感と躍動感を与えていると感じました。演奏終了後も崩さない硬い表情と生真面目さは私の好むところです。必死に究極を追い求める求道者の雰囲気醸しておられたように感じました。現代には稀有な存在となった姿勢を大切にされつつもう一皮か二皮向けると偉業を達成されるように感じました。壁を乗り越えた先の喜びと余裕を獲得された暁の演奏を楽しみにしております。ドイツでの日々の悪戦苦闘を応援しつつ筆をおきます。ありがとうございました。

北村朋幹さんのリサイタルのチラシを見て初めて知ったプリペアドピアノ。1台のピアノなのに、複数の打楽器で演奏しているようで、本当に驚いた。行ったことのない国を次々と旅しているような気分になった。最後まで飽きることのない74分、そこまで長く感じなかったことに、またまた驚いた。

プリペアドピアノを聴いたのは初めてだった。あまり想像できなかったが、少し想像していたものとも全然違った。

初めて聴く不思議な音楽で新鮮だったが、民族楽器のような音が懐かしくもあって、とても引き込まれた。

前日の講座で細工されたピアノの一音一音は聴きましたが、それらが曲となって耳に届いてきたものはまったく印象が異なり、驚かされました。そして、ピアノが「打楽器」ということがまざまざと理解できました。

準備段階から演奏が始まるというケージの曲。そしてその曲を聴くための前半のプログラム。音にこだわりのある北村さんの演奏にグッと引き込まれ、宇宙空間のようでした。アンコールがチャイコフスキーだったのも、「戻ってきた」という感じがして不思議な面白い時間でした。他の曲も聴いてみたいです。